

留学白書 2020



2021.7.20

留学支援共同利用センター

『留学白書 2020』について

東京外国語大学が2014（平成26）年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（タイプB:グローバル化牽引型）に選定され、7年が経ちました。申請で掲げた留学に関する目標は、学生が卒業までに一人2回留学する、「留学200%」です。その目標を達成するために、本学の学生がどのような留学を行っているのかを確実に把握することが必要となり、本白書の作成が始まりました。

その目的の下、本学の留学状況をまとめた留学白書も7冊目となりました。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、ほとんど新たに海外渡航できなくなる事態となりました。留学を心待ちにしていた学生が数多くいる中で、このような事態になってしまったことは誠に残念でなりません。他方で、テレビ会議システムなどを活用したオンライン国際交流、リモート留学を積極的に活用する契機にもなりました。オンライン交流を効果的に活用することで、リアルな留学をより充実したものにする、そんな感触を得た1年でもありました。

なお、本『留学白書 2020』は7章から成っています。I章からVI章が分析編、VII章が資料編です。

これにより本学の留学状況の全体像を知っていただければ幸いです。

2021年7月

留学支援共同利用センター

目次

分析編

I. 留学の種類	6
1. 長期留学	6
① 交換留学（学部、大学院）	6
② 休学留学（学部）	6
③ 自由留学（学部）	7
④ 長期インターンシップ等（学部、大学院）	7
⑤ 長期研究留学（大学院）	7
⑥ 海外フィールドワーク等（大学院）	7
2. 短期留学	8
① ショートビジット（学部、大学院（修士））	8
② スタディツアー（学部）	8
③ 短期インターンシップ（学部、大学院）	9
④ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院）	9
⑤ Joint Education Program（JEP）（大学院）	9
3. オンライン留学	9
II. 2020年度 留学状況について（概要）	10
III. データから見える課題について	14
IV. 2020年度 留学状況	15
1. 学部学生（長期・短期総合）	15
① 留学者総数	15
② 学年別・期間別留学者数	15
③ 2014年度から2020年度の期間別留学者数の推移	16
④ 学部別・期間別留学者数	16
2. 学部学生（長期留学）	18
① 留学種別・留学開始年度別長期留学者数	18
② 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）	18
③ 留学種別長期留学者数の推移	19
④ 留学種別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合	20

⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移	20
⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数	21
⑦留学先地域別長期留学者数の推移	22
⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数	23
⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況.....	25
⑩2019年度長期留学者の単位認定状況.....	27
【参考】新型コロナウイルスの影響により留学期間を短縮した学生	27
3. 学部（短期留学）	28
①留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移	28
4. 大学院生（短期・長期）	29
①大学院生の長期留学について.....	29
②大学院生の短期留学について.....	29
③大学院生の奨学金受給状況	30
5. オンライン留学の状況	31
V. 2020年度学部卒業時点での留学状況について.....	33
①卒業生の在学中の長期留学回数.....	34
VI.SGU指標（2021年6月 フォローアップ調査）	35
資料編	39

分析編

I. 留学の種類

本学では、長期留学で6つ、そして短期留学で5つ、留学の種類を分類しています。白書では、この11のタイプの留学者数の推移に注目していきます。

1. 長期留学

本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を、長期留学として定義しています。夏学期のみ、冬学期のみの留学は短期留学に分類されます。

※新型コロナウイルスの影響により、長期留学の予定だったものが、早期帰国により期間としては短期留学の期間となった場合でも、本書では長期留学としてカウントしています。

①交換留学（学部、大学院）

本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学です。

■交換留学・さらに詳しく■

2021年1月1日現在で、本学が学術交流協定を締結している70カ国・地域の227の教育機関のうち、170の大学・高等教育機関と学生交換に関する協定が結ばれています。協定に基づき、海外の協定校の学生が来日して本学で学ぶ一方、本学から先方大学に学生が派遣されます。例年、前年の10月に公募、11月に選抜、12月に決定のスケジュールをとっています。

交換留学では、学生は本学を休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて4年で卒業することが可能です。ただし就職活動との関係などから、実際には卒業を延ばす学生が多いのが実情です。

交換留学では、留学先の学費が免除される代わりに、本学に学費を納入します。生活にかかる経費は派遣先により異なりますが、大学としては給付型奨学金の確保に努めています。2019年度出発の交換留学では265人中192人（うち4人大学院生）の派遣者が奨学金を受給しており、うち166人（うち4人大学院生）にJASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度奨学金が支給されました。JASSO奨学金の受給には、家計基準や本学での学業成績（GPA）が考慮されるほか、派遣先での単位取得が条件となっています。

②休学留学（学部）

休学をして留学するもののうち、単位認定の申請を行っている留学です。

■休学留学・さらに詳しく■

単位認定が可能な留学先教育機関は、事前に教授会で承認される必要があります。休学留学により取得した単位は、本学の卒業必要単位の一部とすることができます。ただし、出発前に単位認定を申請したものの、帰国後、実際に単位認定の手続きをする学生の数が必ずしも多くないため、単位認定者数を増やすのが課題です。

③ 自由留学（学部）

休学して留学するもののうち、単位認定の申請なしに留学をするものです。

■自由留学・さらに詳しく■

語学留学・学部留学を問わず、単位認定の申請をせずに、海外の教育機関等に留学するものを自由留学と呼んでいます。

④ 長期インターンシップ等（学部、大学院）

休学して海外に在住するもののうち、その目的がインターンシップのものです。2015年より始まった国際交流基金による「日本語パートナーズ派遣事業※大学推薦プログラム」による派遣、在外公館勤務等も含まれます。

※日本語パートナーズ派遣事業

独立行政法人国際交流基金が実施する事業で、幅広い世代の人材を、ASEAN 諸国等の教育機関（主に中学・高校）で日本語を教える教師やその生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣するものです。日本語パートナーズは、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN 諸国の日本語教育を支援します。同時に、日本語パートナーズ自身が現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN 諸国等と日本の懸け橋になることを目標としています。本事業は、2021年度まで実施されることになっています。

⑤ 長期研究留学（大学院）

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学をするものです。単位認定はありません。コチュテル※、日本学生支援機構の海外留学支援制度（大学院学位取得型）での留学等を含みます。

※コチュテル（外国の大学院等との博士論文共同指導）（本学における定義）

博士課程に所属する学生の研究指導を行うにあたり、所属大学と外国の連携高等教育機関との間で協定を締結した上で、双方の指導教員が共同指導を行い、博士論文が合格となった場合には、所属大学と連携機関との双方から、それぞれ学位を授与される制度です。

⑥ 海外フィールドワーク等（大学院）

大学院生が休学をし、教育機関等に属さずに海外で研究を行うものです。

2. 短期留学

本学では、夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を、短期留学と定義しています。休学して行う留学は短期留学には含まれません。

① ショートビジット（学部、大学院（修士））

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学するものです。世界教養プログラム「短期海外留学」を履修します。留学前教育、留学後教育の取り組み状況を考慮して単位認定が行われ、1回の留学に対し2単位が付与されます。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラム（原則、対象者全員参加のプログラム）の形を取っているのは、以下の8つの言語です。

全員型プログラム（ショートビジット）専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ハノイ国家大学・人文社会科学大学	1年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学	1年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	1年次夏学期
アラビア語	カイロ大学、アインシャムス大学、アレキサンドリア大学、アリー・バーバー・インターナショナルセンター	1年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学	1年次冬学期
タイ語	シーナカリンウィロート大学	1年次冬学期
ベンガル語	ジャドブプル大学	1年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学	2年次冬学期

※新型コロナウイルスの影響により2020年度のショートビジット（現地渡航）は全て中止

② スタディツアー（学部）

本学協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本学や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。世界教養プログラム「スタディツアー」を履修します。ショートビジット同様、1回の留学に対し2単位が付与されます。

■例年実施しているスタディツアー■

- 「アジア太平洋地域に築く平和で包摂的な社会」——「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- ムンバイでスラムとソーシャルワークを学ぶ——「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- 国連研修プログラム
- ウズベキスタン・スタディツアー
- マレーシア・スタディツアー

※新型コロナウイルスの影響により2020年度のスタディツアーは、「国連研修プログラム」はオンラインで実施し、それ以外は全て中止

③ 短期インターンシップ（学部、大学院）

本学のグローバルキャリアセンターが実施する海外での短期インターンシップに参加するものです。参加にあたっては、「グローバルビジネス講義」を履修しているものが優先されます。

■例年実施している短期インターンシップ■

- UMW Toyota Motor Sdn Bhd（マレーシア）
- 矢崎投資有限公司（中国）
- Toyota Motors Philippines Corporation（フィリピン）
- PT.Toyota Motor Manufacturing Indonesia（インドネシア）
- AYANA HOTEL & SPA and RIMBA JIMBARAN by AYANA（インドネシア）
- FIDR（国際開発救援財団）（カンボジア）
- マツダメキシコ（メキシコ）

※新型コロナウイルスの影響により 2020 年度の短期インターンシップは全て中止

④ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院）

日本語教育を学ぶ本学学生が、海外で行うインターンシップです。言語文化学部グローバルコミュニケーションコースや大学院の日本語教育分野で実施されています。国際交流基金と連携して、海外で日本語教育を実施するものなどがあります。

⑤ Joint Education Program（JEP）（大学院）

大学院生を、それぞれの研究計画に即して、夏学期・冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上に資する機会を提供するものです。これにより、①現地の協定校の教員から、研究上のアドバイスを得る、②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う、③研究対象地域の大学での修学経験を積み現地理解を深める、などの目標を達成させることとなります。派遣の成果は本学における主任指導教員の担当科目または「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映させるものとしています。

3. オンライン留学

新型コロナウイルスのパンデミックにより、テレビ会議システムなどの IT 技術を利用したオンライン授業が世界各地の大学で実施されています。こうしたオンライン・リモート環境下での留学を「オンライン留学」と呼ぶことにしています。

夏学期・冬学期のショートビジットプログラムは、現地渡航は一律中止となりましたが、代替措置として、協定校がオンラインにて同等のコースを提供する場合は、ショートビジットプログラムに準じて単位認定を行うことになりました（夏学期は単位認定なし）。

また、交換留学においても、協定校がオンライン授業を提供する場合、日本国内からの受講を認め、また、所定の手続きを行うことで単位認定も従来の交換留学に準じて行われることになっています。

本白書では、オンライン留学の実績についても掲載しています。

II. 2020 年度 留学状況について（概要）

2020 年度の本学の学部生の留学状況については、長期、短期で以下の実績となりました。長期留学者については、2020 年度に留学を経験した人数（年度内出発者、年度内帰国者、年度内留学継続者）の合計です。

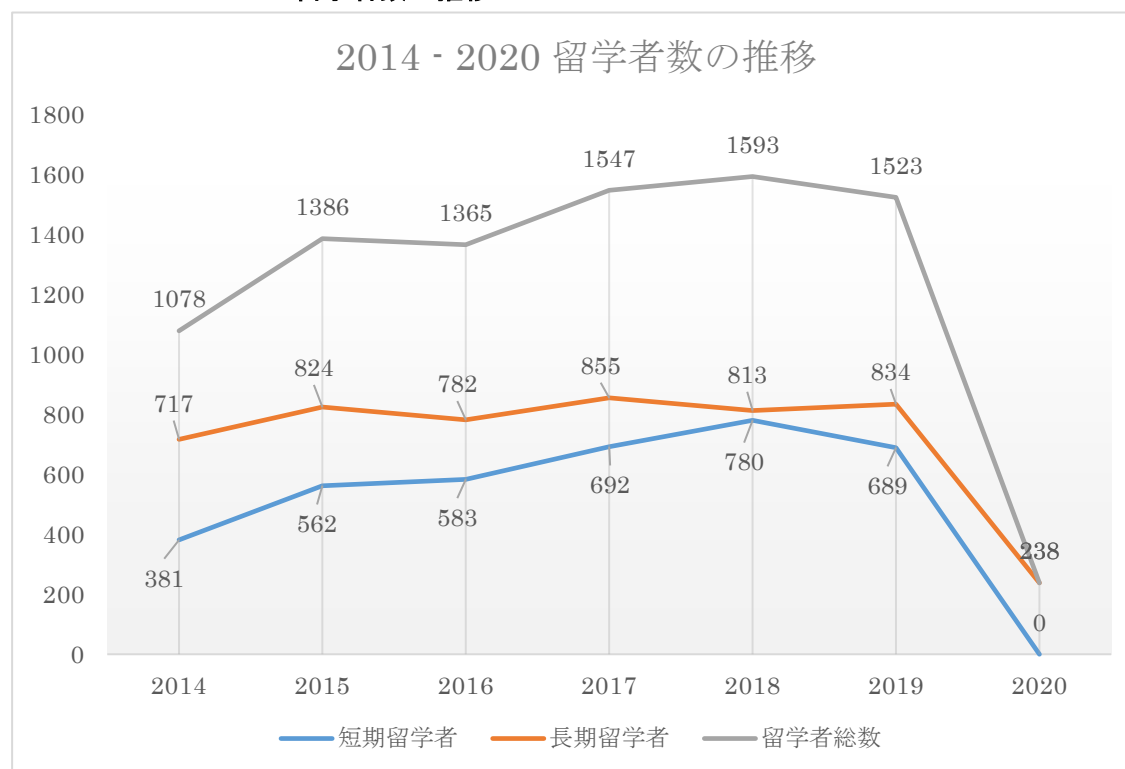
なお、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、留学期間を短縮した場合でも、当初の留学期間が長期に分類されるものについては、実際の留学期間に関係なく長期留学として扱っています。（実渡航を含むもののみカウント。オンラインのみは集計対象外。）

また、早期帰国した場合の留学終了日については、学籍異動データ上の留学終了日としています。

Table 1. 2020 年度短期、長期留学者数

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	0	238	238	3813

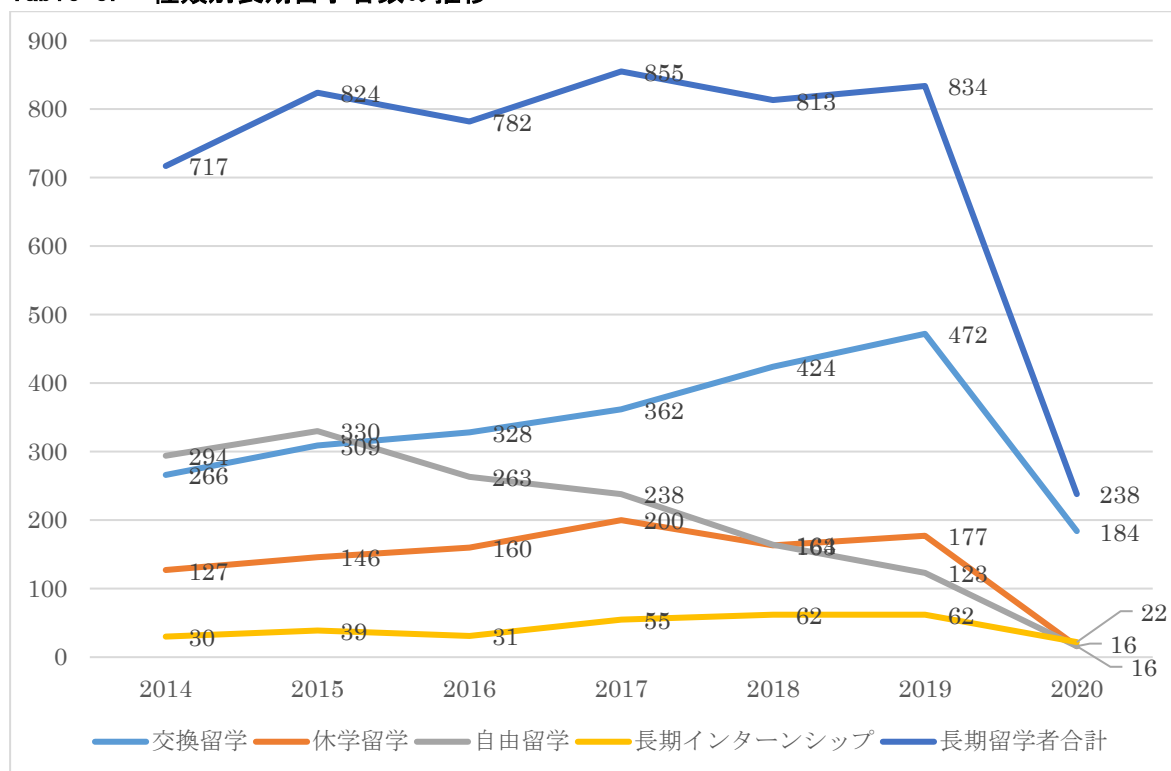
Table 2. 2014-2020 留学者数の推移



留学者総数は、2019 年度と比較すると大幅な減少となりました。これは、新型コロナウイルスの影響によるものです。2020 年度の新規出発者はほぼゼロとなり、2020 年度に計上されている留学者数は、ほとんどが 2019 年度に出発をして、2020 年度に帰国をしたものとなります。

実渡航を伴う短期留学プログラムは全て中止となりました。

Table 3. 種類別長期留学者数の推移



① 長期留学者数合計について：昨年度より大幅に減少

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、交換留学生を派遣することができませんでした。外務省の発出する危険情報において、感染症危険レベルが全世界で2以上となっており、本学の危機管理の方針に従い、原則として海外渡航は認められず、2020年度の新規出発者はほとんどいない状況です。

② 長期留学 種類別における傾向

2020年度は海外渡航が困難な状況となったため、留学の種類を問わず、人数は大幅に減少しました。前年度以前から渡航しており、2020年度に帰国した学生のほとんどが、留学期間を短縮するなど、何らかの形で新型コロナウイルスのパンデミックの影響を受けています。

給付型奨学金受給状況

以下は、2020年度に留学を経験した学生のうち交換留学、その他で分けた場合の受給状況となります。例年の留学白書では、当該年度出発者を対象としていますが、2020年度は交換留学の新規出発者がいないため、2020年度中に留学を経験したものの中の割合を算出しています。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）

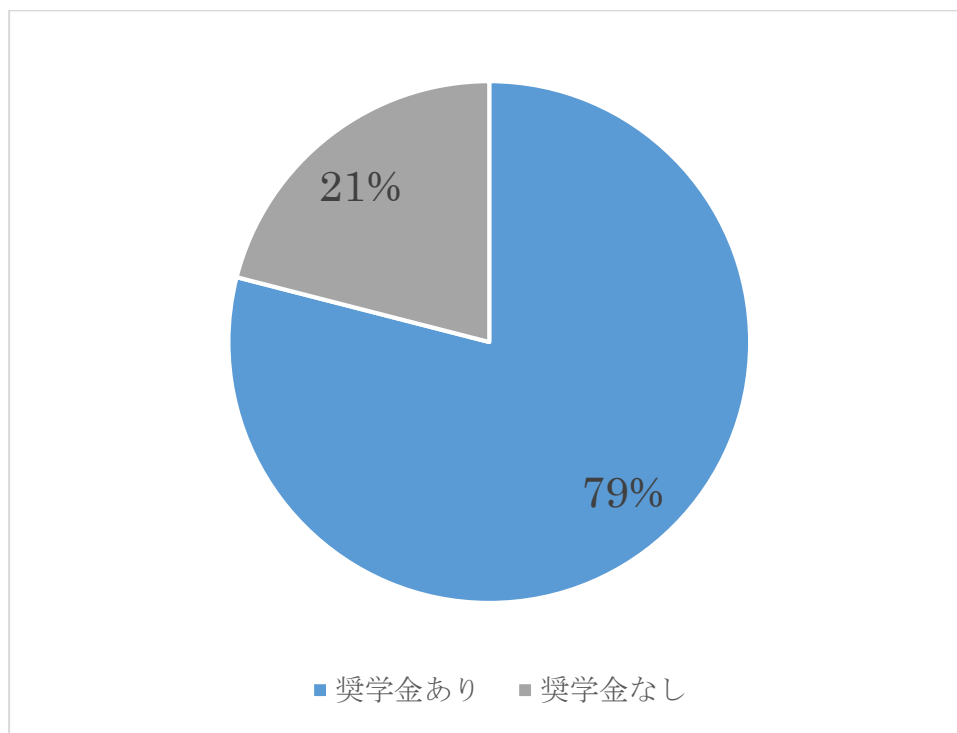


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）

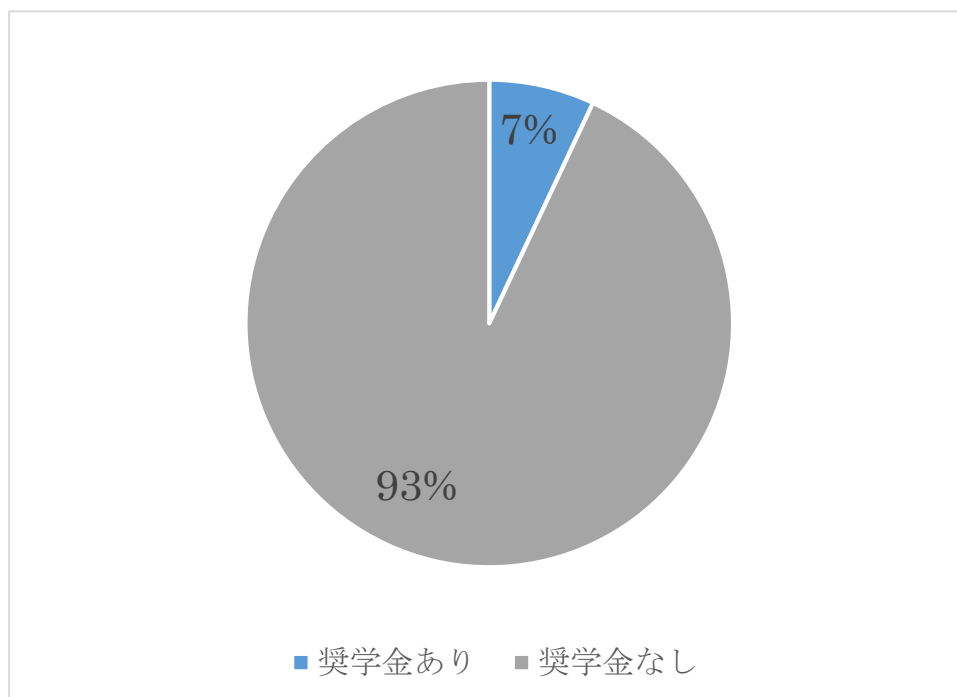
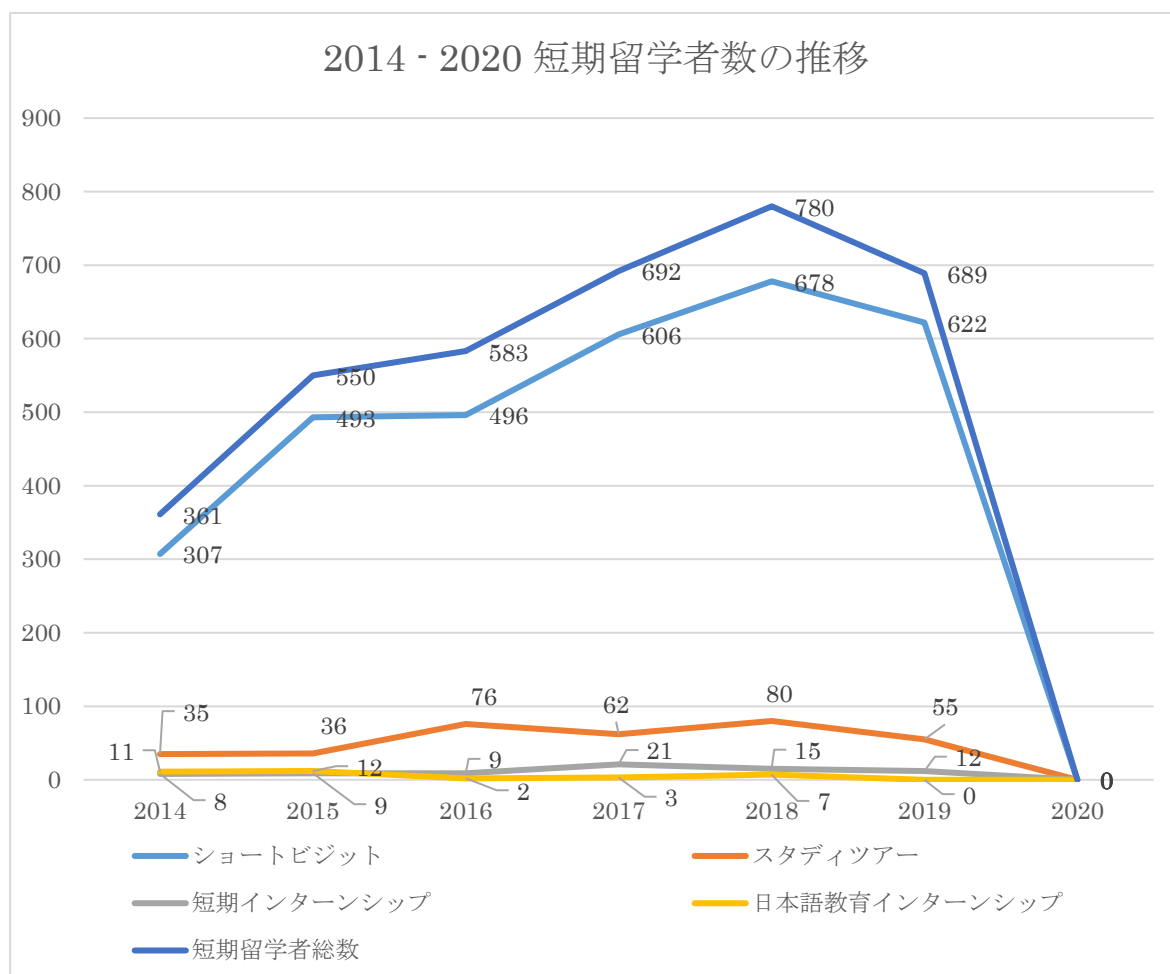


Table 5. 2020 年度短期留学者数



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0

●短期留学者数合計について：新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、現地渡航を伴う短期のプログラムはすべて中止となりました。

ショートビジットは、2014 年度から毎年順調に参加人数を増やしてきましたが、2020 年度は新型コロナウイルスの影響により派遣することができませんでした。このような事態となるのは初めての事です。

Ⅲ. データから見える課題について

①長期留学の種類について

2020年度は新規渡航が困難な状況となったため、長期留学の種類について有効な分析ができませんでした。大学としては、交換留学の枠を増やし、休学せずに留学できるよう努力をしているところですが、2020年度は軒並み渡航ができなくなりました。

②留学の単位認定について

本学の留学の問題点の1つは、特に休学留学において、留学先で取得した単位を本学の単位に認定する手続きをしない学生が多い点です。取得した単位を本学の単位として認定するには、留学生本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行う必要があります。単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています（休学留学の場合は、休学終了後1年以内）。そのため、2018年度に留学に出発した学生の単位認定は、2019年度または2020年度に行われるケースがほとんどになります。

留学白書2018に掲載されている交換留学者・休学留学者（2018年度に帰国した学生および出発した学生）の単位認定状況は以下のとおりです。

留学白書2018掲載者の単位認定状況

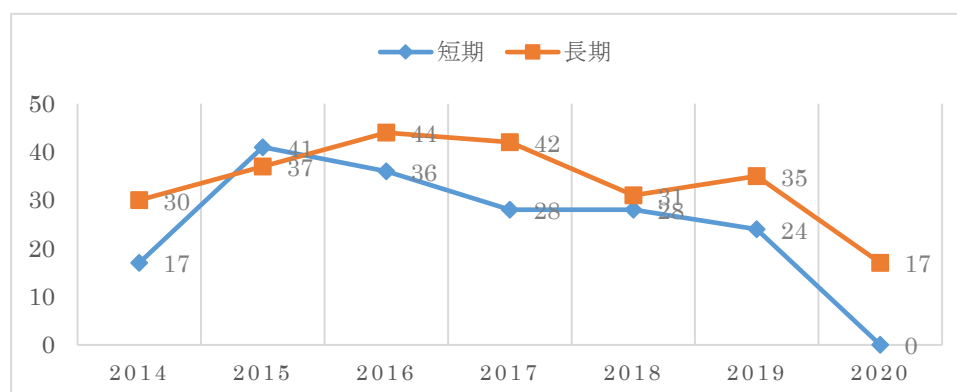
留学種類	留学者数	うち単位認定有 (2020年度末まで)	単位認定者率
交換留学	424	333	79%
休学留学	163	97	60%

留学から帰国後しばらくたった後に単位認定の手続きを行う学生もいるため、単位認定者は増えることが予想されます。交換留学者のうち8割近くの学生が単位の認定を行っていますが、休学留学者の単位認定率は60%にとどまっています。ただし、休学留学者の単位認定者率は年々増加傾向にあるため、引き続き、積極的に単位認定をするよう学生に呼び掛けて参ります。

③大学院生の留学について

大学院生の留学の数は過去5年間でほとんど伸びが見られず、コロナ禍に見舞われた2020年度は、短期派遣はゼロ、長期派遣の人数も大幅に減少しました。

2014年度から2020年度の大学院生の期間別留学者数の推移



IV. 2020 年度 留学状況

1. 学部学生（長期・短期総合）

①留学者総数

2020 年度の期間別留学者数は以下のとおりです。

2020 年度留学者総数

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	0	238	238	3,813
オンライン留学	101	50	151	(参考)

2020 年度（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）の間に、留学を経験した学生の数は、長期留学者 238 人、短期留学者 0 人の、合計 238 人です。2019 年度は合計 1,523 人でしたので、8 割以上の大幅な減少となります。2020 年度は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインツールを利用した「オンライン留学」を経験した学生もおり、短期プログラムに 101 名、長期プログラム（交換留学）に 45 名、休学しての長期留学に 5 名が参加しました。なお、長期留学者数には、2019 年度以前に留学を開始し 2020 年度中に帰国したものと、2020 年度中に出発して帰国したもの、また 2020 年度中に出発して 2021 年 3 月 31 日現在、海外滞在中のものを含みます。

②学年別・期間別留学者数

2020 年度の渡航時学年別、期間別の留学者数は以下のとおりです。（実渡航者）

Table 6. 学年別・期間別留学者数（太字は 5 割を超えた数）

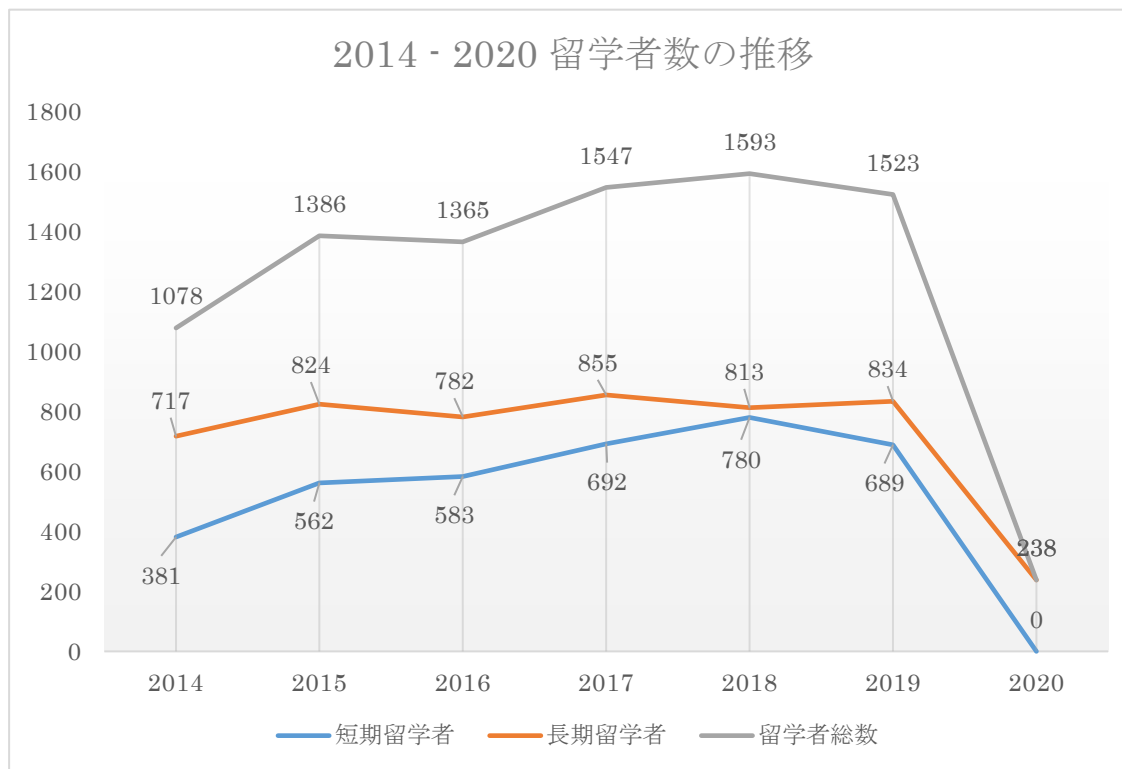
学年	短期	学生総数 中の短期 留学者数 の割合	長期	学生総数 中の長期 留学者数 の割合	留学者 総数(人)	留学者数 の割合	学生総数 (人)
1	0	0%	1	0.1%	1	0.1%	774
2	0	0%	16	1.8%	16	1.8%	876
3	0	0%	202	21.8%	202	21.8%	925
4	0	0%	19	1.5%	19	1.5%	1,238
合計	0	0%	238	6.2%	238	6.2%	3,813

2020 年度の実渡航を伴う留学者数は上記の通り 3 年生が大多数を占めています。なお、オンライン留学については、ショートビジット参加者 83 名中、1 年生 45 名、2 年生 31 名、3 年生 7 名でした。スタディツアー（国連研修プログラム）参加者 18 名中、1 年生 12 名、2 年生 3 名、3 年生 3 名でした。オンラインの長期留学（交換留学）の参加者 45 名中、3 年生 43 名、4 年生 2 名でした。

③2014 年度から 2020 年度の期間別留学者数の推移

留学白書作成を開始した 2014 年度から 2020 年度までの期間別留学者数の推移は、以下のとおりです。

Table 7. 2014 年度から 2020 年度の期間別留学者数の推移

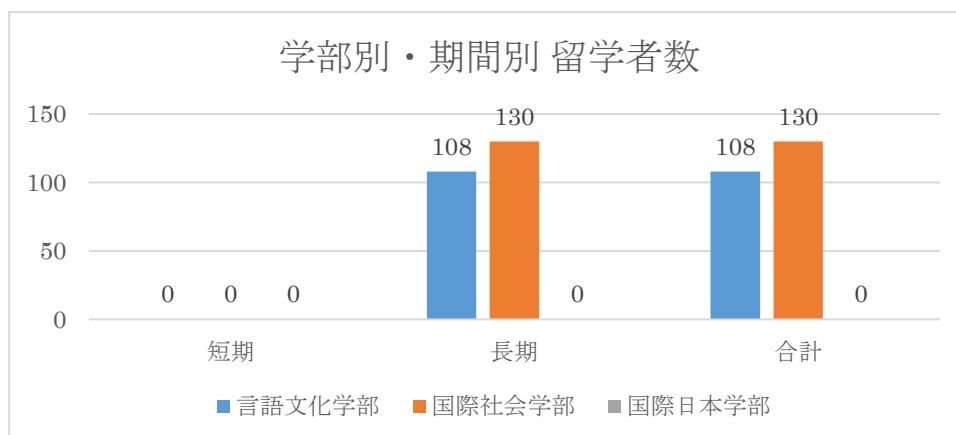


2020 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、留学者数は前年度よりも大幅に減少しました。

④学部別・期間別留学者数

学部別・期間別の分布は次のとおりです。

Table 8. 学部別・期間別留学者数



言語文化学部と国際社会学部の留学者数を比べた場合、国際社会学部が若干多くなりました。国際日本学部は、2019 年度に開設されたこともあり、2020 年度の留学者はゼロでした。

⑤専攻言語別・期間別留学者数

専攻言語による留学者数・率は下記の通りですが、全世界が渡航困難な状況となっているため、比較して何らかの有意な事象を考察することが難しく、参考程度のデータとして掲載しています。

Table 9. 専攻言語別・期間別留学者数（留学者の割合が多い順）

専攻言語	学生総数	短期留学		長期留学		留学者総数	
		留学者数	割合	留学者数	割合	留学者合計	割合
ポルトガル語	124	0	0%	15	12.1%	15	12.1%
ビルマ語	45	0	0%	5	11.1%	5	11.1%
スペイン語	304	0	0%	33	10.9%	33	10.9%
ロシア語	287	0	0%	29	10.1%	29	10.1%
フランス語	274	0	0%	23	8.4%	23	8.4%
ラオス語	50	0	0%	4	8.0%	4	8.0%
タイ語	90	0	0%	7	7.8%	7	7.8%
朝鮮語	146	0	0%	11	7.5%	11	7.5%
チェコ語	67	0	0%	5	7.5%	5	7.5%
英語	479	0	0%	33	6.9%	33	6.9%
ベンガル語	47	0	0%	3	6.4%	3	6.4%
トルコ語	65	0	0%	4	6.2%	4	6.2%
ポーランド語	66	0	0%	4	6.1%	4	6.1%
モンゴル語	68	0	0%	4	5.9%	4	5.9%
フィリピン語	70	0	0%	4	5.7%	4	5.7%
中国語	284	0	0%	16	5.6%	16	5.6%
アラビア語	133	0	0%	6	4.5%	6	4.5%
ウルドゥー語	67	0	0%	3	4.5%	3	4.5%
イタリア語	135	0	0%	6	4.4%	6	4.4%
ベトナム語	71	0	0%	3	4.2%	3	4.2%
ヒンディー語	110	0	0%	4	3.6%	4	3.6%
ドイツ語	270	0	0%	9	3.3%	9	3.3%
インドネシア語	100	0	0%	3	3.0%	3	3.0%
ペルシア語	68	0	0%	2	2.9%	2	2.9%
マレーシア語	55	0	0%	1	1.8%	1	1.8%
日本語	297	0	0%	1	0.3%	1	0.3%
カンボジア語	41	0	0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	3813	0	0%	238	6.2%	238	6.2%

2. 学部学生（長期留学）

学部生の長期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

2020年度に留学を開始した学生は21人、うち交換留学学生が0人、休学をして留学（自由留学、長期インターンシップ）した学生が21人です。

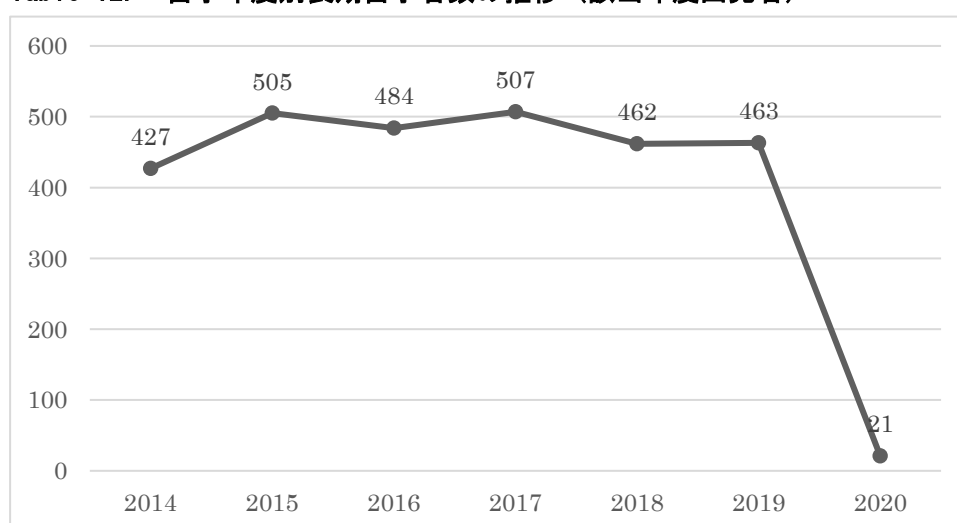
Table 11. 留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

	～2019年度（前年度）出発者		2020年度出発者		合計
	～2019年度出発、 2020年度帰国	2019年度出発、 2020年度留学中	2020年度出発	2020年度出発、 帰国	
交換	184	0	0	0	184
休学留学	16	0	0	0	16
自由留学	8	0	6	2	16
長期インターン	7	2	11	2	22
合計	215	2	17	4	238
	217		21		

②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

年度出発者の数の推移は以下のとおりです。

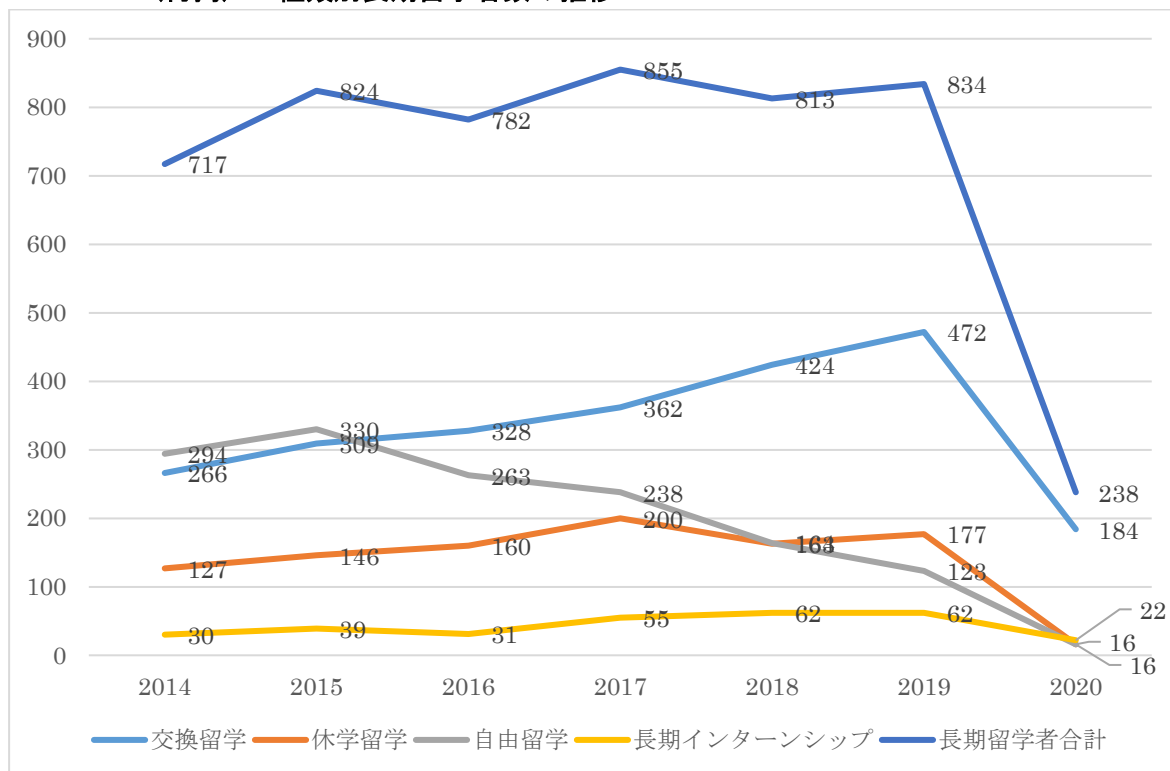
Table 12. 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）



③留学種別長期留学者数の推移

長期留学の種別留学者数の2014年度からの7年間の推移は、以下の通りとなっています。

Table 3. (再掲) 種別長期留学者数の推移



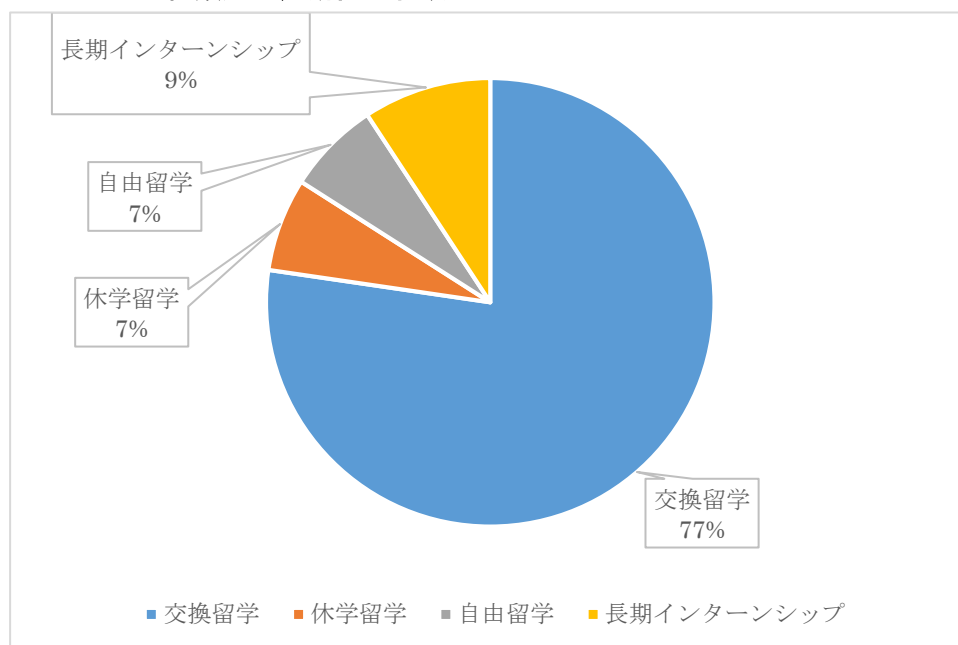
年度	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターン	留学者数合計
2014年度	266	127	294	30	717
2015年度	309	146	330	39	824
2016年度	328	160	262	32	782
2017年度	362	200	238	55	855
2018年度	424	163	164	62	813
2019年度	472	177	123	62	834
2020年度	184	16	16	22	238

留学種別に関係なく、2019年度に比べて留学者は軒並み大幅に減少しました。休学留学、自由留学の減少幅に比べると、長期インターンシップの減少幅が小さくなっていますが、これは「在外公館派遣員制度」に参加した学生が一定数いるためです。

④留学種類別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合

長期留学の種類ごとの人数が全体に対してどの程度の割合になるかについては、以下のとおりとなります。2019年度に出発して、2020年度に帰国した交換留学者数が多く、全体の中のかなりの部分を占めています。休学しての留学・渡航については、長期インターンシップが、休学留学や自由留学よりも割合が高くなっています。

Table 13. 種類別 長期留学者数の割合

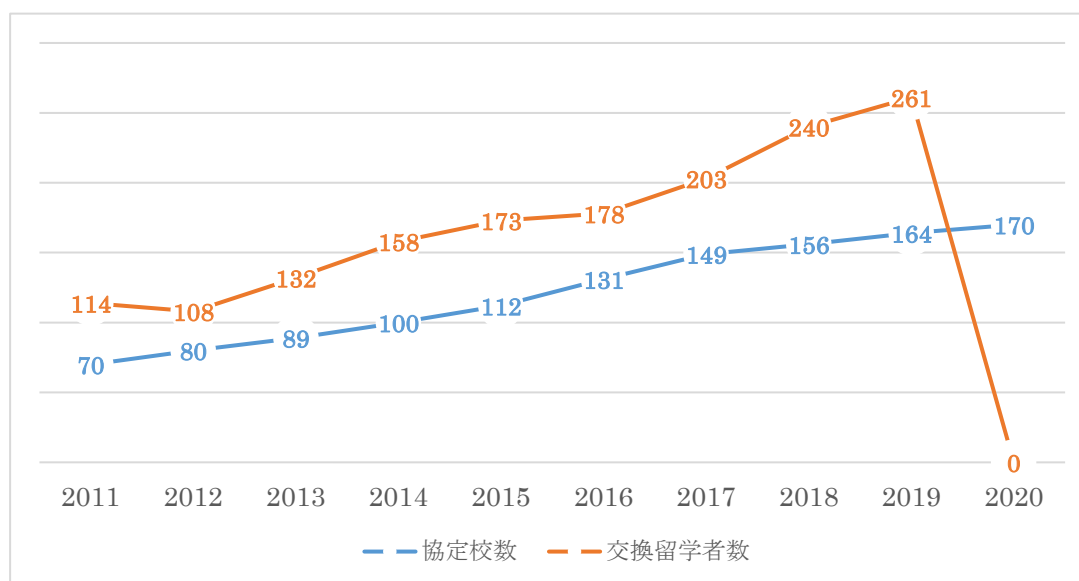


長期留学のうち、本学がもっとも推奨するのは、「交換留学」です。休学をして留学をする場合にも、単位認定申請のできる教育機関を選び、「休学留学」をすることを勧めています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、新規渡航が困難な状況となり、上記の数字は、2019年度出発者が大半を占めています。

⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移

2019年度まで順調に交換留学者数が伸びていましたが、理由の一つとして、学生交流協定校数が伸びている点が挙げられます。2020年度も学生交流協定校数は順調に増加し、269名が交換留学生として選抜されていたため、例年のように海外渡航が可能であれば、交換留学者数は前年度を上回る人数となるところでしたが、残念ながら学生派遣ができなくなったことはこれまで繰り返し述べてきた通りです。

Table 14. 学生交流協定校数と交換留学者数（年度出発者）の推移



⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数

留学先としては、ヨーロッパが最も多くなっています。2カ国・地域以上に留学している場合、最初に留学した国・地域でカウントしています。

Table 15. 留学先地域別・留学種類別長期留学者数

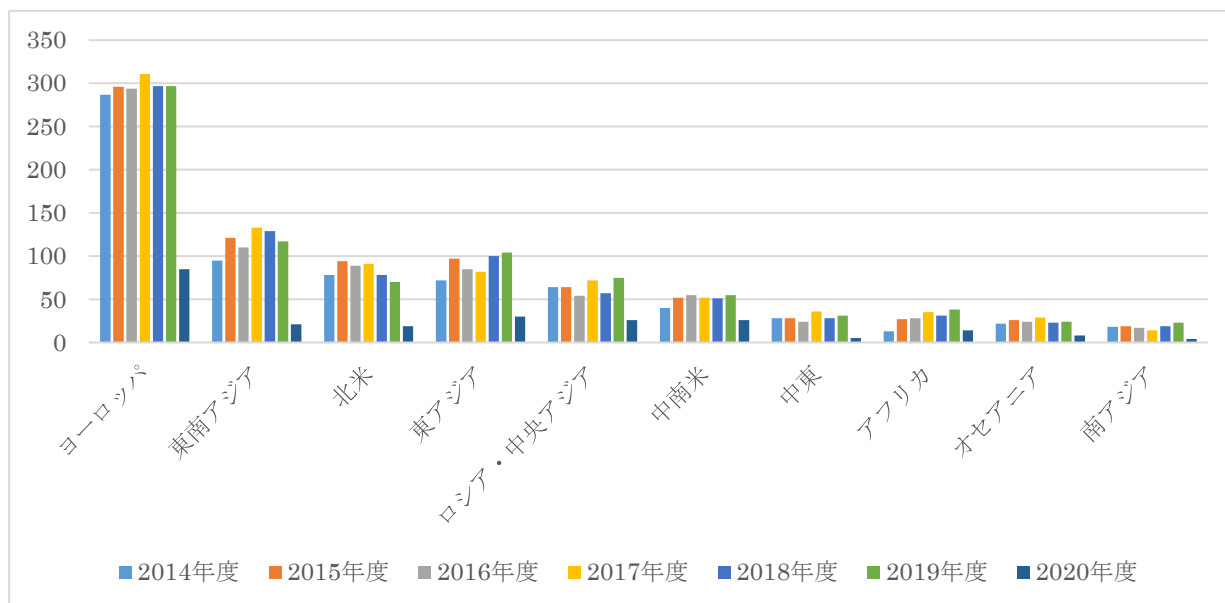
地域名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターンシップ	合計
ヨーロッパ	73	5	5	2	85
東アジア	24	2	2	2	30
中南米	20	1	0	5	26
ロシア・中央アジア	20	4	2	0	26
東南アジア	15	2	0	4	21
北米	16	0	3	0	19
アフリカ	6	1	0	7	14
オセアニア	3	1	3	1	8
中東	4	0	1	0	5
南アジア	3	0	0	1	4
合計	184	16	16	22	238

本学から長期留学をした学生数は、多い順にヨーロッパ、東アジア、中南米となっています。新型コロナウイルスの影響により早期帰国した学生も多く、また、帰国のタイミングは学生個人によって異なるため、地域別の人数の多寡は例年とは異なる傾向となっています。

⑦留学先地域別長期留学者数の推移

地域別長期留学者数の推移は以下のとおりです。

Table 16. 留学先地域別長期留学者数の推移



留学先地域名	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
ヨーロッパ	287	296	294	311	297	297	85
東南アジア	95	121	110	133	129	117	21
北米	78	94	89	91	78	70	19
東アジア	72	97	85	82	100	104	30
ロシア・中央アジア	64	64	54	72	57	75	26
中南米	40	52	55	52	51	55	26
中東	28	28	24	36	28	31	5
アフリカ	13	27	28	35	31	38	14
オセアニア	22	26	24	29	23	24	8
南アジア	18	19	17	14	19	23	4
留学者数合計	717	824	780	855	813	834	238

2019年度までは、地域別の留学者数については、ヨーロッパが一番多く、次いで東南アジア、という傾向でしたが、2020年度は変化がありました。

⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年とは留学状況が大きく変化しました。留学先国として、これまで人数が多かった国としては、ドイツ、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、などが挙げられますが、2020年度は、ロシア、フランス、スペインの順になっています。

Table 17. 留学先国別・留学種類別長期留学者数

	国名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インター ンシップ	合計
1	ロシア	15	2	1	0	18
2	フランス	12	1	1	1	15
3	スペイン	11	1	1	1	14
4	韓国	10	1	1	1	13
5	アメリカ	10	0	1	0	11
5	イギリス	9	1	1	0	11
7	ブラジル	9	0	0	0	9
7	メキシコ	3	1	0	5	9
7	台湾	7	0	1	1	9
10	カナダ	6	0	2	0	8
11	中国	6	1	0	0	7
12	イタリア	5	1	0	0	6
12	チェコ	6	0	0	0	6
12	ドイツ	5	0	1	0	6
12	ポルトガル	6	0	0	0	6
16	オーストラリア	2	0	3	0	5
16	コロンビア	5	0	0	0	5
16	タイ	4	0	0	1	5
19	スイス	4	0	0	0	4
19	トルコ	4	0	0	0	4
19	ポーランド	3	0	1	0	4
19	ミャンマー	4	0	0	0	4
19	ルワンダ	2	0	0	2	4
24	アイルランド	3	0	0	0	3
24	アルゼンチン	3	0	0	0	3
24	インド	3	0	0	0	3
24	ウズベキスタン	3	0	0	0	3
24	南アフリカ	1	0	0	2	3

29	インドネシア	2	0	0	0	2
29	エジプト	1	1	0	0	2
29	オランダ	2	0	0	0	2
29	スロベニア	2	0	0	0	2
29	ニュージーランド	1	1	0	0	2
29	フィリピン	1	1	0	0	2
29	フィンランド	2	0	0	0	2
29	ベトナム	0	0	0	2	2
29	マレーシア	1	1	0	0	2
29	ラオス	1	0	0	1	2
39	ウクライナ	0	1	0	0	1
39	オーストリア	1	0	0	0	1
39	カザフスタン	1	0	0	0	1
39	キルギス	0	0	1	0	1
39	クウェート	0	0	1	0	1
39	ザンビア	1	0	0	0	1
39	シンガポール	1	0	0	0	1
39	タンザニア	0	0	0	1	1
39	トルクメニスタン	1	0	0	0	1
39	ナミビア	0	0	0	1	1
39	ノルウェー	1	0	0	0	1
39	バングラデシュ	0	0	0	1	1
39	フィジー	0	0	0	1	1
39	ブルネイ	1	0	0	0	1
39	ベラルーシ	0	1	0	0	1
39	ベルギー	0	1	0	0	1
39	マダガスカル	0	0	0	1	1
39	モロッコ	1	0	0	0	1
39	モンゴル	1	0	0	0	1
39	リトアニア	1	0	0	0	1
合計		184	16	16	22	238

留学先国・地域数合計：58

⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況

交換留学者 184 人のうち、給付型奨学金を受給した学生は 145 人で、79%にのびります。ほとんどが JASSO（日本学生支援機構）の奨学金ですが、トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム奨学金や、民間財団の奨学金など、様々な方法で支援を受けています。

2020 年度に留学を経験した学生の給付型奨学金受給状況を、留学種別にまとめると以下のようになります。

Table 18. 長期留学者の奨学金受給者数

奨学金名	交換 留学	休学 留学	自由 留学	長期 インター ン	合計
日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度	121	0	0	0	121
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	6	1	0	0	7
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金	11	0	0	0	11
佐藤陽国際教育財団	3	0	0	0	3
恵国際奨学財団	2	0	0	0	2
JASSO、エラスムス	1	0	0	0	1
寺浦さよ子記念奨学会	1	0	0	0	1
日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画	0	1	0	0	1
NAWA ポーランド政府奨学金	0	0	1	0	1
クウェート政府奨学金	0	0	1	0	1
合計	145	2	2	0	149

交換留学、その他で分けた場合の奨学金受給状況は以下のとおりです。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）（再掲）

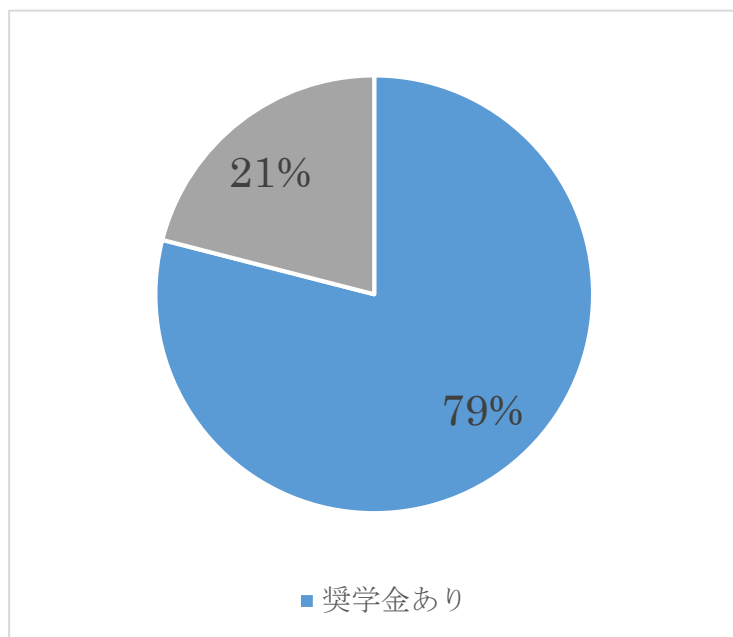
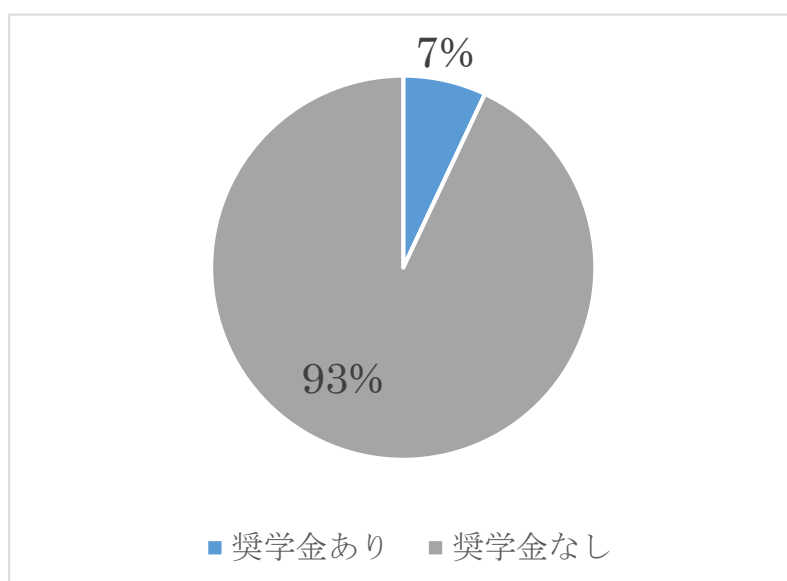


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）（再掲）



交換留学制度を利用して留学をした学生の方がはるかに受給率が高いことがわかります。これは、奨学金の応募要件に学生交流協定に基づく留学であることとの指定のある奨学金が多いためです。経済的支援が必要な留学希望者は、まず交換留学を目指すことが留学実現への近道となります。

留学種類別の奨学金の受給率は以下のとおりです。

Table 19. 長期留学種類別奨学金受給率

	受給者数(人)	留学者合計(人)	奨学金受給率
交換留学	145	184	78.8%
休学留学	2	16	12.5%
自由留学	2	16	12.5%
長期インターンシップ	0	22	0%
合計	149	238	62.6%

⑩2019年度長期留学者の単位認定状況

留学者が長期留学先で取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行うことが必要です。交換留学の場合、単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています。休学留学の場合は、休学終了後1年以内に行うこととなります。そのため、2019年度に留学に出発した学生の単位認定の大部分は、2020年度または2021年度に行われることとなります。

2019年度に出発、または帰国した学生の単位認定状況は、2021年3月31日現在以下のとおりとなっています。

Table 20. 2019年度に出発・帰国した交換・休学留学者の単位認定状況 (2021.3.31現在)

	単位認定済(人)	単位認定未済(人)	合計(人)	単位認定実施率
交換留学	300	172	472	63.6%
休学留学	75	102	177	42.4%

JASSOの奨学金を受給するためには、留学中の単位取得が必須となっています。ただし、留学先の取得した単位を本学の単位として認定する手続きをしない学生も一定数います。JASSOの奨学金は、交換留學生のための奨学金です。

【参考】新型コロナウイルスの影響により留学期間を短縮した学生

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、多くの留學生が留学期間を短縮して早期に帰国するなどの影響が出ました。2019年度の出発した学生のうち、新型コロナウイルスの感染拡大を理由に、留学期間を短縮した学生数は、大学で把握している限り、全体で281名です。(交換留学：182、休学留学：74、自由留学：16、長期インターンシップ：9)

なお、早期帰国した学生は、留学先大学がオンラインでの授業を提供している場合は、帰国後もオンライン授業を受講している学生もいます。留学先に滞在するケースでも、ほとんどの大学で授業はオンラインで実施されています。

3. 学部（短期留学）

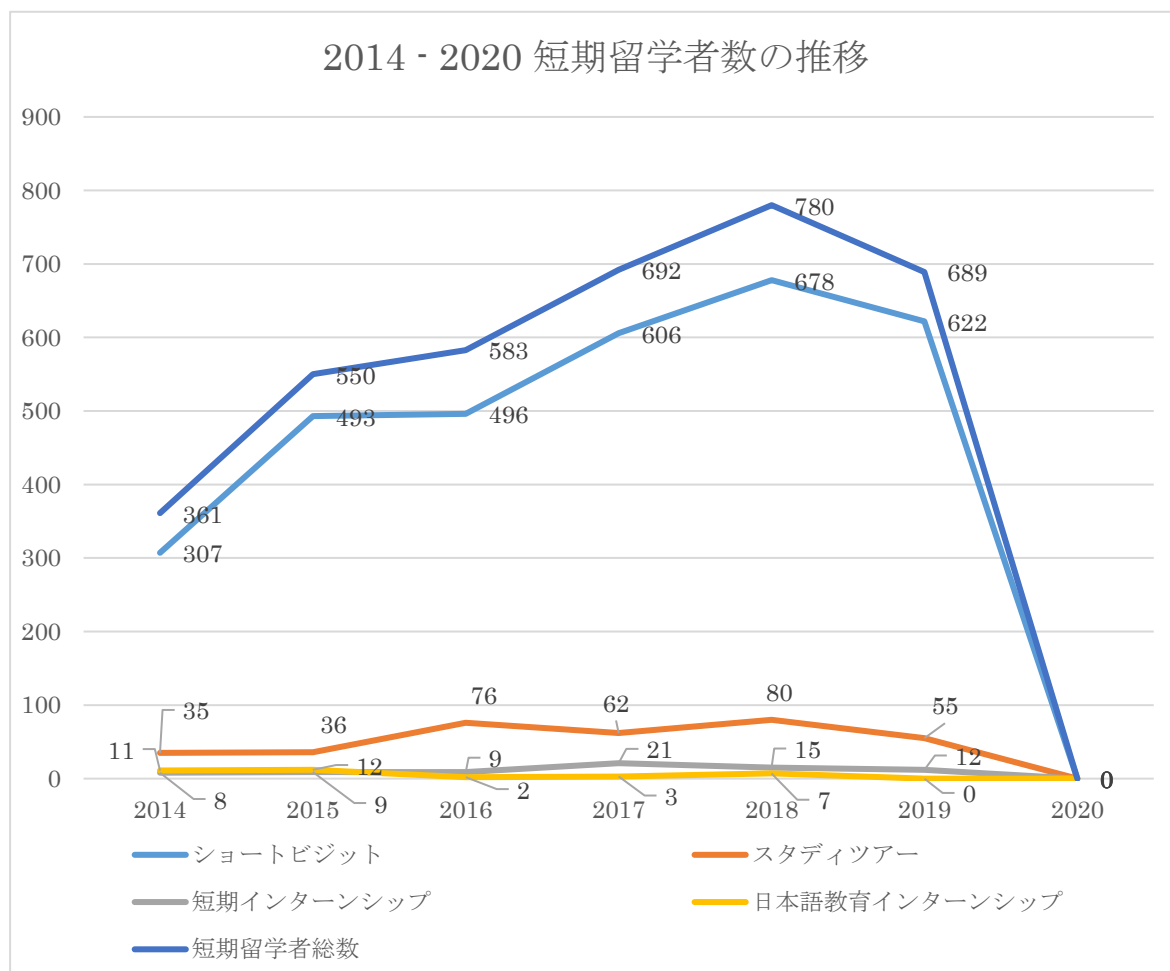
2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、短期留学プログラムは全て中止となりました。従って、派遣実績はありません。本項目では、参考までに経年推移のみ掲載しておきます。

①留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移

短期 Table3（再掲）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0

短期 Table4（再掲）



4. 大学院生（短期・長期）

本学の大学院の在籍者 516 人（2020 年 5 月 1 日現在）に対し、留学者数は、必ずしも多くはありません。

①大学院生の長期留学について

院 Table 1. 大学院生の留学種類別長期留学状況

	2019 年度以前出 発、2020 年度帰国	2019 年度以前出発、 2020 年度留学中	2020 年度出発、 2021 年度以降帰国	合計
交換留学	2	0	0	2
自由留学	4	1	3	8
長期インターンシ ップ	1	3	2	6
フィールドワーク	0	1	0	1
合計	7	5	5	17

②大学院生の短期留学について

院 Table 2. 大学院生の留学種類別短期留学状況

留学種類	人数
JEP	0
ショートビジット	0
スタディツアー	0
短期インターンシップ （日本語教育）	0
留学者合計	0

長期留学においては休学をして留学をする自由留学の人数が多くなっています。大学院生が休学をして留学をする場合については、単位認定の制度はありません。大学院生の留学についても、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる影響が出ています。

短期留学は 2020 年度は派遣実績はありません。

③大学院生の奨学金受給状況

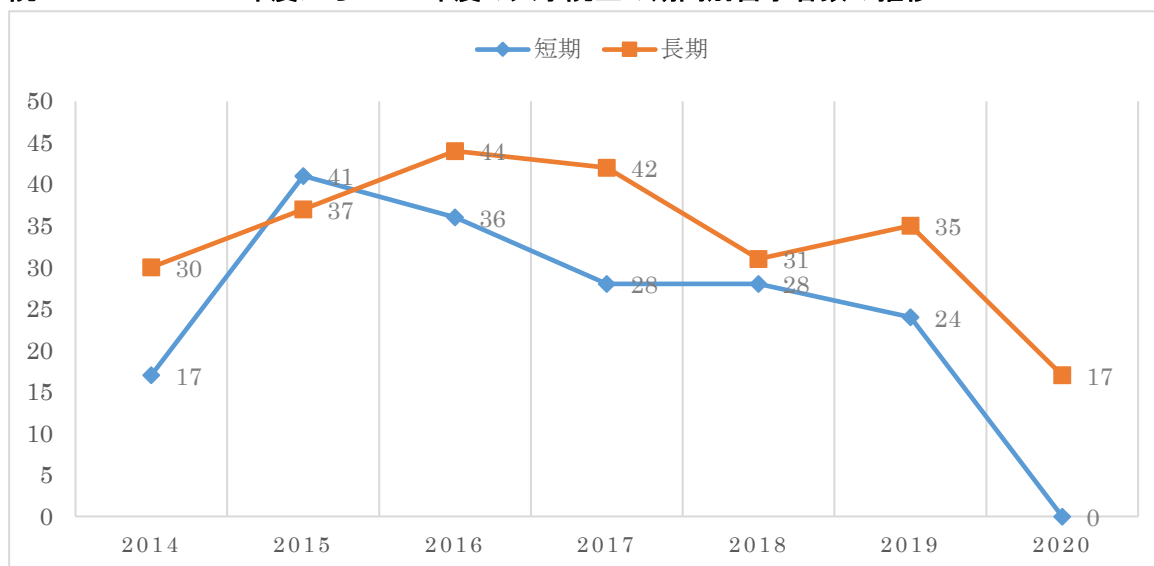
短期・長期を合わせた留学種類別の奨学金受給状況は以下のとおりです。

院 Table 3. 留学種類別奨学金受給状況

奨学金名称	長期				合計
	交換留学	自由留学	長期インターンシップ	フィールドワーク	
日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度	2				2
フルブライト奨学金		1			1
台湾教育省台湾奨学金		1			1
松下幸之助志記念財団奨学金		1			1
NAWA ポーランド政府奨学金		1			1
奨学金なし	0	4	6	1	11
留学者合計	2	8	6	1	17

学部生同様、長期留学では交換留学の形で留学をする学生の奨学金受給率が高く、2020年度は交換留学に参加した2名全員がJASSOの奨学金を受給して留学しています。また、各国政府による奨学金は、大学院レベルに対して支給されるものも多く、2020年度は3名が各国政府の奨学金を得ています。また、長期インターンシップでは奨学金なし、となっていますが、在外公館派遣員などで海外渡航するものもあり、現地で報酬を得ているケースもあります。

院. Table 4 2014年度から2019年度の大学院生の期間別留学者数の推移



大学院生の留学者数においては、前述の通り、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、人数は大幅に減少しました。大学院レベルでの留学者数が少ない原因として、大学院生516名のうち、48.8%にあたる252名が留学生であることも影響していますが、2020年度は新型コロナウイルスによる影響が大きいと思われます。

5. オンライン留学の状況

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により現地渡航ができなくなりましたが、本学を含め世界各地の高等教育機関では、対面授業の代わりにオンライン授業が導入されました。本学の海外協定校においても、留学生向けにオンラインコースを提供する大学も多数あり、リアルな留学に代わるものとして、オンライン留学を選択する学生もいました。ただし、参加人数としては、実渡航を伴う留学に比べると大幅に少なくなっています。

ここでは、オンライン留学の実績について記載します。

実渡航を伴う留学とオンライン留学を合わせた人数

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
実渡航を伴う留学者数	0	238	238	3,813
オンライン留学者数	101	50	151	
合計	101	288	389	

②セメスター単位でのオンライン留学

交換留学のうち、2020年度に協定校にオンライン留学を実施した人数は届け出ベース（※）で45名となっています。2020年度派遣予定の交換留学生は、269名おり、45名がオンラインで受講、207名が辞退、17名が延期となっています。なお、協定校によっては、交換留学プログラムを中止し、オンライン授業の提供もない大学もありました。

※2021年度3月の国際マネジメントオフィス留学部会にて承認された分までをカウント

オンライン受講者の協定校の所在先国ごとの人数

No.	国名	人数	No.	国名	人数
1	ロシア	8	11	メキシコ	1
2	イタリア	7	12	リトアニア	1
3	フランス	5	13	ウクライナ	1
4	タイ	5	14	中国	1
5	ポーランド	4	15	台湾	1
6	ベトナム	2	16	インドネシア	1
7	アメリカ	1	17	カンボジア	1
8	イギリス	1	18	インド	1
9	カナダ	1	19	ドイツ	1
10	スイス	1	20	オーストリア	1
					45

また、休学してオンライン留学を実施した人数は、5名です。（中国3名、フィリピン1名、アメリカ1名）

交換留学と休学しての留学合計で、50名がセメスター単位のオンライン留学を経験しました。

②短期プログラム（ショートビジットプログラムの代替等）

【夏学期】（単位認定なし）

No.	協定校名	コース内容	参加人数
1	ゲッティンゲン大学	ドイツ語コース	3
2	アイルランド国立大学コーク校	英語コース	2
3	北京語言大学	中国語コース	2
4	アルカラ大学	トルコ語コース	1
5	ウィーン大学	ドイツ語コース	1
合計			9

【冬学期】（単位認定あり）

No.	協定校名	コース内容	参加人数
1	ラオス国立大学	総合型	20
2	アリー・バーバー・インターナショナル・センター	アラビア語	18
3	王立ブノンペン大学	総合型	16
4	ゲッティンゲン大学	ドイツ語	3
5	カレル大学	総合型	2
6	デラサール大学	英語	2
7	北京語言大学	中国語	2
8	ザパーン・ランゲージ・インスティテュート	ヒンディー語	1
9	ディーキン大学	英語	1
10	ウィーン大学	ドイツ語	1
11	ブリティッシュ・コロンビア大学	英語	1
12	サラマンカ大学	スペイン語	1
13	マラガ大学	スペイン語	1
14	マサリク大学	総合型	1
15	オークランド大学	英語	1
16	グルノーブル・アルプ大学	フランス語	1
17	ヤギェロン大学	ポーランド語	1
18	北京大学	中国語	1
合計			74

夏学期は単位認定がありませんでしたが、冬学期は、ショートビジットに準じて単位認定を行いました。冬学期のプログラムのうち、ラオス国立大学、アリー・バーバー・インターナショナルセンター、王立ブノンペン大学の3機関については、全員型プログラムとして実施したため、参加人数が他のプログラムよりも多くなっています。

夏学期、冬学期合わせて、学年別での参加人数は、1年生が45名、2年生が31名、3年生が7名の合計83名となっています。

また、例年冬学期に実施されている「国連スタディツアー」はオンライン開催され、18名の学生が参加しました。（スタディツアー科目ではなく、集中講義として実施）

V. 2020 年度学部卒業時点での留学状況について

2020 年度（3 月）には、737 名の学部生が卒業しました。737 人の在学中の留学状況をまとめると以下のようになります。

卒業生（外国籍学生を含む）

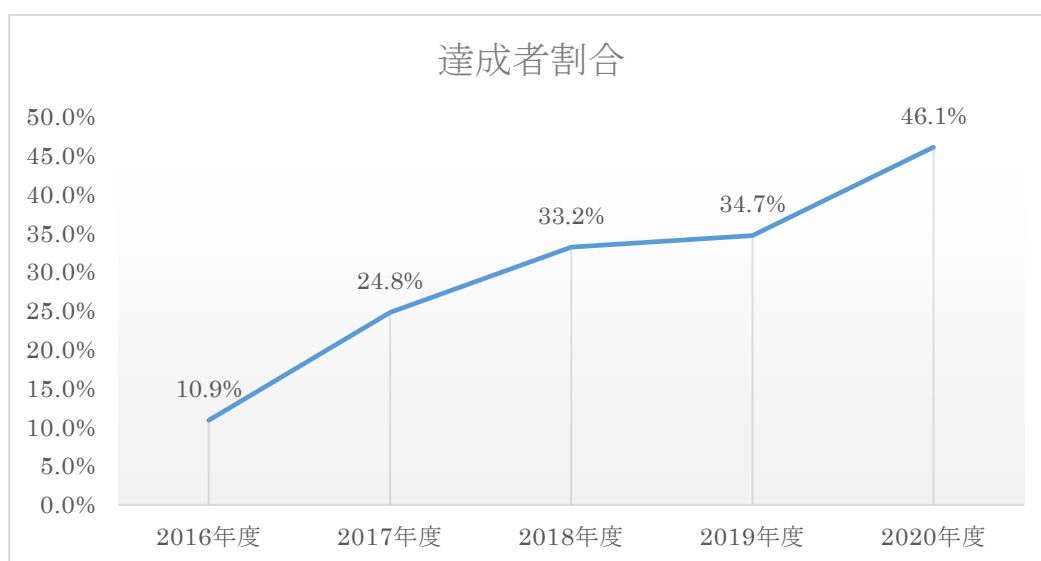
留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	156	340	46.1%
1 回	241		
2 回	278		
3 回以上	62		
合計	737	340	46.1%

※休学を伴わない私的な短期の留学等は対象外としています。

卒業生（日本国籍保持者のみ）【参考】

留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	131	336	48.0%
1 回	233		
2 回	275		
3 回以上	61		
合計	700	336	48.0%

本学では、スーパーグローバル構想の中で「留学 200%」つまり、在学中に 2 度またはそれ以上の留学をすることを推奨しています。留学を 2 回以上経験した学生の全学生数に対する割合は、2017 年度が 24.8%、2018 年度が 33.2%、2019 年度が 34.7%で、2020 年度は 46.1%となりました。2020 年度卒業生は新型コロナウイルスの影響をあまり受けなかったことが分かります。達成者割合は、2019 年度に比べて大きく増加しました。



①卒業生の在学中の長期留学回数

長期留学を経験した学生の数を留学回数ごとにまとめました。

留学回数	留学者数	うち長期留学 経験者数	短期のみ経験 者数
1	241	126	115
2	278	239	39
3	55	53	2
4	6	5	1
7	1	1	0
合計	581	424	157

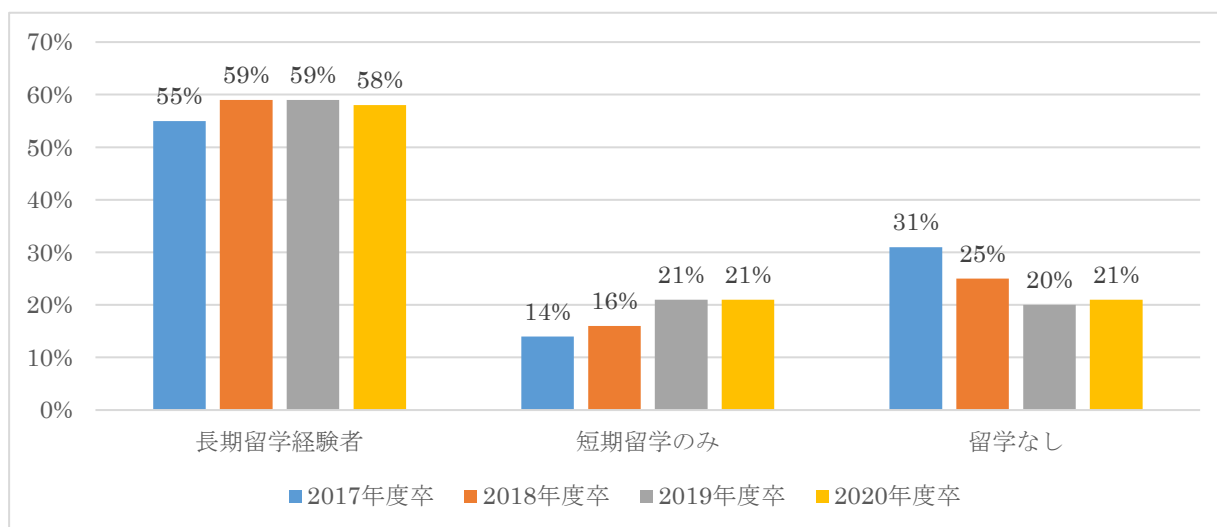
このデータから、留学をした学生のうち 72.9%は長期留学を経験しており、全体の卒業生 737 名のうち 57.5%の学生が長期留学を経験したことがわかります。

②2017～2019 年度と 2020 年度の卒業生の留学状況の比較

2017～2019 年度、および 2020 年度卒業生の留学状況の推移をまとめました。長期留学経験者、短期留学のみの経験者、留学なし、それぞれの数について、比較しています。

全体の卒業生数が年度により増減するため、人数ではなく、卒業生数に対する割合を比較します。ここ 4 年で、長期留学経験者、短期留学のみの経験者、いずれも割合は増加傾向にあり、1 回も留学しない学生の割合は、2017 年度と比較すると、2020 年度は 10 ポイント以上減りました。何らかの形で在学中に留学を経験する学生が増えていることを示していると言えます。

留学種類	2017 年度卒	2018 年度卒	2019 年度卒	2020 年度卒
長期留学経験者	399 (55%)	474 (59%)	463 (59%)	424 (58%)
短期留学のみ	102 (14%)	132 (16%)	163 (21%)	157 (21%)
留学なし	226 (31%)	201 (25%)	160 (20%)	156 (21%)
合計	727 (100%)	807 (100%)	786 (100%)	737 (100%)



VI.SGU 指標 (2021年6月 フォローアップ調査)

留学については、文科省「スーパーグローバル大学創生事業」が定める算定方法により「日本人学生に占める留学経験者の割合」と「大学間協定に基づく交流数」の算出が求められています。また、本学のSGU構想では、独自の指標として「世界各地への留学数」と「留学200%の達成数」を掲げています。

◆ SGU 指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合

文科省定義：

・全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。この場合、留学期間は問わない。

・大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された学生の数を記入する。この場合、単位取得の有無は問わない。

注1) 単位取得を伴う海外留学経験者数(A)については、過去の経験は除き、当該年度に申請大学において単位認定された学生数を計上。

注2) 当該年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても1人として計上。

注3) 全学生数(D)は学校基本調査の定義の全学生から外国人留学生と在日外国人を除いた数(5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合										
年度	H25	H26	H27	H28		H29	H30	R01	R02	R05
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
単位取得を伴う海外留学経験者数(A)(人)	119	393	699	748	750	845	972	847	332	1486
うち女性(人)					578	607	738	590	264	
うち学部(B)(人)	119	386	669	744	723	825	948	837	332	1460
うち女性(人)					558	593	722	583	264	
うち大学院(C)(人)	0	7	30	4	27	20	24	10	0	26
うち女性(人)					20	14	16	7	0	
全学生数(D)(人)	3979	3960	4019	3998	3989	3988	3972	3982	3903	3830
うち女性(人)					2589	2597	2597			
うち学部(E)(人)	3667	3654	3737	3662	3685	3670	3694	3693	3639	3494
うち女性(人)					2427	2432	2431			
うち大学院(F)(人)	312	306	282	336	304	318	278	289	264	336
うち女性(人)					162	165	166			
割合(A/D) %	3.0	9.9	17.4	18.7	18.8	21.2	24.5	21.3	8.3	38.8
割合(B/E) %	3.2	10.6	17.9	20.3	19.6	22.5	25.7	22.7	8.9	41.8
割合(C/F) %	0	2.3	10.6	1.2	8.9	6.3	8.6	3.5	0	7.7
教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(G)(人)	32	23	25	38	40	41	30	35	15	52
割合(G/F) %	10.3	7.5	8.9	11.3	13.2	12.9	10.8	12.1	5.7	15.5
日本国籍を有する正規学生数(全学生数)と、その内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。										

2020年度は、実際のフォローアップ調査票では、留学者数の内訳に関して、女性の人数だけでなく、「実渡航」「オンライン」「ハイブリッド」に分けて報告した。

本学定義：

単位取得を伴う海外留学経験者数 (A) について

・①学部生(女性)：単位認定をした日本国籍の交換留学 87(72)、休学留学 2(2)、ショートビジット 74(62)、スタディツアー15(12)、日本語教育インターンシップ 0(0)→178(148)

※ビルマ語の冬学期の集中講義(オンライン留学) 8(3)を追加 → 186(151)

大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学 0(0)、国際機関インターンシップ 0(0)、大学院生向け TUFSS Joint Education Program 0(0)、日本語教育インターンシップ 0(0)

・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える(日本国籍保持者)→学部 +146(112)、大学院 0(0)

・③2から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているもの(学部 0(0)、大学院 0(0))を差し引く。

以上を合計すると、学部生：332(264)

大学院 (C) について

大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学 0(0)、国際機関インターンシップ 0(0)、大学院生向け TUFSS Joint Education Program 0(0)、日本語教育インターンシップ 0(0)、ショートビジット 0(0)、スタディツアー0(0) →0(0)

・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える→大学院 0(0)

・③2から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているもの→大学院 0(0))を差し引く。

以上を合計すると、大学院生：0名(0)

教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数 (G) について

単位取得の有無は問わない。

3ヶ月以上派遣された日本国籍の大学院生(交換、自由、フィールドワーク、長期インターン)をカウント。15名

◆SGU指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ②大学間協定に基づく交流数

文科省定義：

・外国の大学との連携・交流協定に基づき交流した学生数を記入する。

・日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

注1) 当該年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は延べ数で計上。

注2) 年度またぎの派遣・受入の場合はどちらの年度においても計上。その際、申請大学において単位認定された年度については「うち単位取得を伴う・・・」に、その他の年度については「うち単位取得を伴わない・・・」にそれぞれ計上。

注3) 日本人学生(A)の定義は、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生。

注4) 全学生数(B・D)は学校基本調査の定義を引用(2021年5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性										
②大学間協定に基づく交流数										
年度	H25	H26	H27	H28		H29	H30	R01	R02	R05
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	310	568	797	871	819	950	1093	1069	310	1672
うち女性					612	664	854	753	246	
うち単位取得を伴う学部生数	103	371	561	722	566	676	737	690	161	1442
うち女性					444	477	611	477	134	
うち単位取得を伴わない学部生数	205	189	218	144	232	258	324	360	147	200
うち女性					155	180	222	264	111	
うち単位取得を伴う大学院生数	0	7	16	4	18	12	23	10	0	26
うち女性					12	6	17	7	0	
うち単位取得を伴わない大学院生数	2	1	2	1	3	4	9	9	2	4
うち女性					1	1	4	5	1	
全学生数 (B)	4559	4592	4647	4597	4721	4690		4414	3903	4671
(うち女性)					3097	3051				
割合 (A/B) (%)	6.8	12.4	17.2	18.9	17.3	20.3		25.1	7.9	35.8

本学定義：

大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A) について

うち単位取得を伴う学部生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジットの日本国籍を持つ単位認定済み参加者数を合計 (161 (134)) し、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生 (0(0)) を差し引く。

うち単位取得を伴わない学部生数

交換留学生で単位認定が未済の日本国籍保有者数を算出 138(102)。これに単位認定のなかった夏学期のショートビジット参加者で日本国籍を持つ学生 9(9) を加える。→147(111)

うち単位取得を伴う大学院生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学 0(0)、ショートビジット 0(0)、協定校への JEP (非協定校除く) 0(0)、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生 (0) を差し引く。→0 (0)

※前年度から継続して留学している者や翌年度にかけて留学している者を含む。

うち単位取得を伴わない大学院生数

交換留学生で単位認定が未済のものから、日本国籍以外の学生を引いた数を算出 2(1)。これにショートビジットで単位認定のなかった日本国籍を持つ学生を加える 0(0)。→2(1)

◆独自指標

(指標3) 留学200%達成者

本学定義：学部卒業生に占める2度の留学体験者の割合を算出する。留学の定義は、留学白書に掲載分すべて。学生の国籍は問わない。また、単位取得の有無は問わない。

(指標4) 本学学生の全世界的展開

本学定義：本学学部・大学院からの留学生の留学先を地域別に分類する。留学の定義は留学白書への掲載分すべて。学生の国籍は問わない。2回留学したものは、2回カウント。また、単位取得の有無は問わない。2地域・国に留学している学生（休学留学の場合）については、最初に行った国でカウント。

大学独自の成果指標と達成目標										
<定量的>										
年度	H25	H26	H27	H28		H29	H30	R01	R02	R05
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
(指標3) 留学200%達成者 (%)	0	1.0	11.1	20	10.9	24.8	33.2	34.7	46.1	90
(指標4) 本学学生の全世界的展開 (人)	447	751	1039	970	1111	1613	1656	1582	406	1740
うち北米	44	112	134	100	156	216	200	179	43	147
うち欧州	183	254	374	300	361	536	526	559	135	462
うち中ア/中央アジア	66	71	81	120	89	119	114	115	34	178
うちアフリカ	1	14	20	10	29	55	56	56	14	50
うち中近東	20	43	49	60	46	81	72	163	25	145
うち東南アジア	45	114	151	100	156	256	276	239	69	205
うち南アジア	1	21	24	40	20	32	56	64	6	113
うち東アジア	69	83	138	140	145	168	222	166	41	256
うち中南米	11	15	32	70	70	70	81	77	28	134
うちオセアニア	7	24	42	30	39	80	53	64	11	50

資料編